

Little, Brown & Co.刊行の法律書籍とその行方

成田 博

本稿は、Little, Brown & Co. 創業までの経緯を中心に語った拙稿「34 Beacon Street, Boston, Mass.」(本誌048(486)=2017年3月号)の続編である。

“The Law Book Department had always been a source of pride at Little, Brown.”とLittle, Brown & Co.の125年史は書いている(One Hundred and Twenty Five Years of Publishing, 1837-1962, at 61)。実際、Government Printing Officeが引き受けるまで法令集Statutes at Largeを刊行していたのはLittle, Brown & Co.であったし、1875年から1883年まで米国連邦最高裁判所判例集を刊行していたのもLittle, Brown & Co.である。さらに、Oliver Wendell Holmes, Jr., The Common Law(1881)、John Chipman Gray, The Rule Against Perpetuities(1886)、John Henry Wigmore, A Treatise on the System of Evidence in Trials as Common Law(1904-1905)といった書物も刊行されている。

しかし、法学界における同社最大の貢献は、C. C. Langdell, A Selection of Cases of the Law of Contracts(1871)を刊行したことにあるのではないか。もしもこの書物が刊行されなかったならば、今日、米国のロー・スクールがどのようなかたちものになっていたのか想像がつかない。Samuel WillistonはLangdellがケース・メソッドを用いた初めての講義に参加していた一人で、1940年刊行の自伝Life and Lawにその話が出ているが、これまたLittle, Brown & Coから刊行されている。

時間は前後するが、Henry WheatonのThe Elements of International Lawも同社の刊行である。尤も、同書の初版は1836年の刊行で、このとき、Little, Brown & Co.はいまだ誕生しておらず、PhiladelphiaのCarey, Lea & Blanchardが出版を引き受けた。それが、後の版に至ってLittle, Brown & Co.から刊行されたのは、創業者のCharles C. Littleが、妻Sarah(彼女は、前回紹介したWilliam Hilliardの娘である)を亡くして1854年1月に再婚した相手がWheatonの娘Abbyであったことによるところが大きいように思われる(これは既に松隈清『国際法史の群像—その人と思想を訪ねて—』[1992年、酒井書店]341頁が指摘するところである)。

ただし、同社が法律書に特化した出版社でないことも言うておく必要があるだろう。Henryk SienkiewiczのQuo Vadis, James HiltonのGoodbye, Mr. Chips, J. D. SalingerのThe Catcher in the Ryeを刊行したのもLittle, Brown & Co.である。

既に1968年、Little, Brown & Co.はTime Inc.に買収されていたが(その後のことも含めて、詳細は、<https://www.hachettebookgroup.com/company-history/>を参照されたい)、それから約30年後の1996年、最終的に法律書籍はWolters Kluwerに属するAspen Law & Businessに売却されるに至った(Doreen Carvajal, Dutch Publisher Buying Division of Little, Brown, New York Times, August 29, 1996 (<http://www.nytimes.com/1996/08/29/business/dutch-publisher-buying-division-of-little-brown.html>))。出版業界における合併あるいは買収は世界的な規模で行われているが、それによって米国を代表する名門出版社Little, Brown & Co.の法律部門の長い伝統が途絶えたのは限りなく寂しいことであると言わなければならない。